

COVID-19 感染症の蔓延が褥婦のメンタルヘルスに及ぼす影響  
～妊娠初期から産後 1 か月健診のアンケート調査より～

医療法人エスダブリューシー

真田産婦人科麻酔科クリニック

○吉村紀子 向千津子 前野智美 石井宏美 島ノ江栄子 平川万紀子 平川俊夫  
帝京大学大学院保健学研究科 田出美紀

【目的】

2020 年の始まりとともに COVID-19 感染を確認、4 月以降、緊急事態宣言に伴い、当院では家族の立ち会い分娩や付添い、面会を制限した。この状況が妊産褥婦のメンタルヘルスや児への愛着形成にどのような影響を及ぼすのか、COVID-19 感染症発生前年度と比較し検討する。

【研究方法】

対象：2019 年 4 月～2021 年 3 月に産後 1 か月健診を終えた 1176 名。COVID-19 感染者が県内で確認された 2020 年 2 月以降を COVID-19 影響群（705 名、以下影響群）、それ以前を対照群（471 名）とした。

調査方法：属性および妊娠・分娩・産褥の経過に関する情報、子育て支援アンケート、育児支援チェックリスト、マタニティーブルー尺度（以下、MB）、エジンバラ産後うつ病自己評価票（以下、EPDS）、赤ちゃんへの気持ち質問票（以下、BD）を用いた。

【結果】

属性では、不妊治療後の妊娠のみ影響群 52 名（7.4%）、対照群 19 名（4.0%）で有意差があった（ $\chi^2$  検定、 $P=0.02$ ）。項目別では影響群に MB の緊張（ $P=0.04$ ）、退院時の EPDS の不安・心配（ $P=0.01$ ）、恐怖（ $P=0.01$ ）を示す項目が有意に高かった（Mann-Whitney の U 検定）。EPDS 合計点のカットオフポイントを 9 点とし、抑うつ傾向がみられたのは、退院時・2 週間健診・1 か月健診の順に影響群 69 名（9.8%）、44 名（6.2%）、35 名（5.0%）、対照群 34 名（7.2%）、29 名（6.2%）、21 名（4.5%）であった。どの時期も 2 群間に有意差はなかった（ $\chi^2$  検定）。EPDS 合計点の平均値の差を分析した結果、退院時のみ影響群  $3.5 \pm 3.8$  点、対照群  $3.0 \pm 3.6$  点で影響群が有意に高かった（ $P=0.03$ ）。

【考察・結論】

COVID-19 感染症は母親や家族を取り巻く環境に影響し、感染の不安や感染予防対策の実施に伴う孤立感が母親の緊張、不安・心配、恐怖などメンタルヘルスにも波及したことが推察された。面会制限等あるなか、全スタッフで家族の代わりを担うべく寄り添い、退院後も産後ケア、電話訪問、公認心理師面接等細やかなフォローが 2 週間健診、1 か月健診での EPDS 点数の上昇を抑えたと考える。今現在も COVID-19 感染症の蔓延は継続しており、今後も母親だけに留まらず家族への切れ目のない支援が必要である。